

Sense-Roid 作品紹介

DIGITAL CONTENT EXPO2010
次世代コンテンツ技術展 (ConTEX) 2010

電気通信大学 梶本研究室

高橋宣裕・岡崎龍太・岡部浩之・吉川博美
栗生馨奈子・山川隼平・横山牧

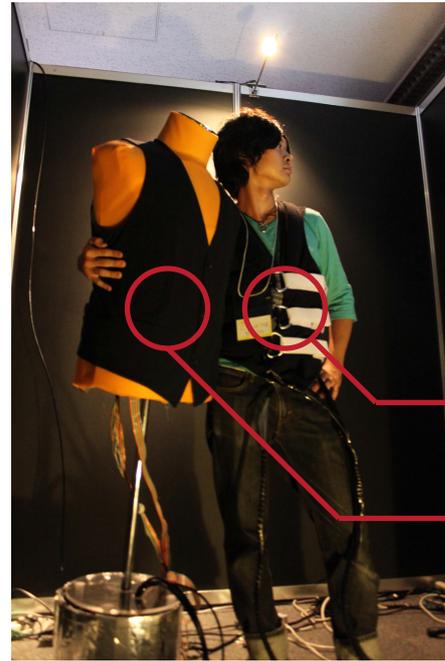
E-mail: nov@kaji-lab.jp

作品概要

体験者は、触覚提示ジャケットを身につけ、自分の分身となる Sense-Roid と向き合う。

Sense-Roid は人間の上半身を模した模型に圧力センサ、マイクロスイッチが組み込まれたものである。触覚提示ジャケットには McKibben 型ソフトアクチュエータ (人工筋肉、振動モータが組み込まれており、圧迫感、なぞり感を提示する。

体験者が Sense-Roid に触れることで、触覚提示ジャケットその触覚をフィードバックする。これによって体験者はあたかも外側にいるもう一人の自分を触り、またそれから触られているような感覚を味わうことができる。



触覚提示
ジャケット

Sense-Roid

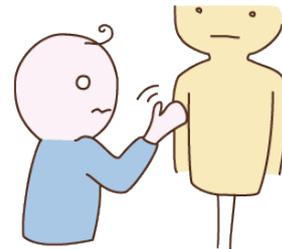
体験手順

1



体験者は触覚提示ジャケットを身につける。

2



体験者は Sense-Roid と正対し、Sense-Roid に対して触る、撫でる、抱きつくなどの行為を行う。

3



体験者の行為は Sense-Roid 内部のセンサを通じて体験者自身へとフィードバックされる。体験者は自分で自分をさわり、触られているかのような感覚を味わう。

4



体験者はやがて自分 to 自分という究極のフィードバックの心地よさに気づき、自己愛が育まれていく。